バリアフリームーブメント Vol.34

“いざ”じゃないとき知る知識！
“いざ”というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、必要なことを先取りしよう！

『ユニバーサルデザイン配慮家電製品リスト
―高齢者や障害のある人にも使いやすいと思われる家電製品―』

～今回のテーマ～
より多くの人に使いやすいモノを買う前にチェックしたい
「リスト」や「カタログ」

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品を紹介しているこのコーナー。

今回は、家電製品やおもちゃを買う時に参考にしたい「製品リスト」や「カタログ」を紹介する。

（森川　美和）

私たちの身の回りには、数多くの電気製品がある。

テレビ、ビデオ、オーディオ、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、ルームエアコン、照明器具などの普及などにより、私たちの暮らしは便利になり、今や生活の必需品となっているものも数多い。

しかし電化製品の多種多様化、多機能に伴い、不便さを感じる人達もでてきた。

目の不自由な人達からは、「便利になったことはとてもよいが、それぞれの製品の機能が自分達にあったものがわからない。配慮を購入前に知ることができるととても便利」と言う声があがっていた。

そこで平成7年度に、(財)家電製品協会は、「視覚障害者にも使えると思われる家電製品機種名一覧表」を発行。

消費者からは大変好評で、毎年継続発行を決めた。

平成11年度からは、高齢者・障害者の方々にも使っていただけるようにと「高齢者・障害者にも使いやすいと思われる家電製品一覧表」を、平成17年には「ユニバーサルデザイン配慮家電製品リスト」高齢者や障害のある人にも使いやすいと思われる家電製品（写真A）を発行した。

墨字・点字版併用のリストで

（写真B）

（写真A）

[墨字・点字の家電製品リストのお問い合わせ]
障害授産所　ウィズ
電話：053−435−5225／FAX：053−435−5955
〒431-3124　静岡県浜松市半田町104−3

＊この墨字・点字の家電製品リストは、全国の点字図書館等へ家電製品の情報提供の一助として配布しておりますが、障害者授産所ウイズのご協力により実費頒布をしています。

[本件のお問い合わせ]
(財) 家電製品協会
〒105-8472 東京都港区愛宕(あたご)1丁目1番11号　虎ノ門(とらのもん)第(だい)ビル4階
電話：(03) 3431−6080（消費者相談室）
ファックス：(03) 3578−1677
ウェブサイト：http://www.aeha.or.jp/

■本リストの製品は以下6つの配慮点どれかに該当する家電製品である。
[共通配慮事項]
1.わかりやすい表示、
2.わかりやすい用語・図記号、
3.使いやすい操作部分、
4.わかりやすい報知、
5.わかりやすい操作手順、
6.誤操作の配慮

目や耳の不自由な子供たちも一緒に楽しめるおもちゃ
『共遊玩具おもちゃカタログ』

目や耳の不自由な子ども達とそうでない子ども達とが共に楽しく遊べるおもちゃのことを、「共遊玩具」と呼んでいる。

触って分かるレリーフをつけたり、楽しいメロディーやリアルな音がおもちゃから流れたりすると、目の見えない子ども達はもっと楽しむことができる。

音と一緒に光ったり振動したりするおもちゃは、耳の不自由な子ども達も一緒に楽しむことができる。

ひとりでも多くの子どもたちが楽しむことのできるおもちゃは、カテゴリー毎、各製品毎に、掲載製品がどのような条件を満たした製品であるかを記載。

また家電製品協会のウェブサイトでは、本リストを無償公開(http://ud.aeha.jp/)（写真B）しており、各製品の仕様と特徴も分かりやすく説明。さらに、新製品のアップと製品情報を更新した場合には、〝NEW〟という表示で知らせてくれるのもうれしい配慮だ。

リストやWebサイト共に、製品を発売しているメーカーの問い合わせ窓口が記載されているので、もっと情報が聞きたい方や直接店舗に出向くことが困難な方は是非利用していただきたい。

家電製品協会消費者部長の沼尻(ぬまじり)禎二(ていじ)さんは、「ウェブでの展開によって、消費者の皆様に新しい製品の情報がリアルタイムでお知らせできるようになりました。また、本リストは音声読み上げソフトにも対応していますので、目の不自由な方々にも、同じように情報がご提供できるようになりました。今後もより多くの方にご利用いただければ幸いです」と話した。

家電製品協会は、製品のユニバーサルデザイン化を推進と共に、情報のユニバーサルデザイン化を進めている先進的な団体の一つである。

そこで買う際の目印としていただきたいのが、「盲導犬マーク」と「うさぎマーク」である。（写真C）

目の不自由な子ども達に配慮されたおもちゃには「盲導犬マーク」、耳の不自由な子ども達に配慮されたおもちゃには「うさぎマーク」を採用し、できるかぎりおもちゃのパッケージに貼付することで、購入する時に選びやすいようにした。

2005年発行の『共遊玩具カタログ』（写真D）では、盲導犬マークのおもちゃを5つのカテゴリー（1.形をさわろう、2.音をきこう、3.声をきかろう、4.動物をさわろう、5.一緒にあそぼう）に分けて98点を紹介し、うさぎマークのおもちゃは13点紹介している。

日本玩具協会事務局の中田誠さんは、「おもちゃの作り手として、さまざまな立場にある子どもたちが自由に、そして共に楽しめる製品をひとつでも多く世に出していくことはとても大切だと感じています。そのようなおもちゃで育った子どもたちが、皆が共に生きられる社会の担い手になってくれると考えるからです。現実面では、この活動には難しい面も多いのですが、『継続は力』を信じて日々歩んで行きたいと思っています」と話した。

（写真D）

（写真C）

[「おもちゃカタログ」のお問い合わせ]
＊墨字カタログをご希望の方は、下記まで140円切手を同封の上お申し込みください。
（部数に限りがございますので、お1人様1冊でお願いします。）
〒130-8611　東京都墨田区東駒形4-22-4
社団法人日本玩具協会　共遊玩具推進部　担当／中田さん
電話：03-3829-2513　ファックス：03-3829-2510
＊点字カタログは(社)日本玩具協会ウェブサイト
（http://www.toys.or.jp/kyoyu/kyoyuten.htm）からダウンロードできます。
「BASE」形式点字ファイル（32升18行、全88ページ）

（PR）財団法人共用品推進機構☎03-5280-0020／FAX 03-5280-2373
URL：http://kyoyohin.org/　E-mail：jimukyoku@kyoyohin.org